

第33回 抗議デモ・学習会

11月12日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 **「ひかりの輪の本質とカルト性について」**

上祐史浩はオウム真理教アレフから脱会、ひかりの輪を設立し、足掛け10年近くとなるが、上祐の人間性が反映してか、アレフと比べて、ひかりの輪の本質が見えにくく分かりづらい。今回の講演は、オウム真理教の脱会信者や、現役信者の実情にも詳しい滝本太郎弁護士を招き、アレフ脱会以降の上祐の精神的な内部、ひかりの輪の活動の現状や欺瞞性についてお話ししていただきます。

講師：滝本太郎氏(弁護士)

手話通訳があります

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会



滝本太郎氏の略歴

〔略歴〕1957年、神奈川県生。弁護士。1989年11月、友人の坂本弁護士一家殺害事件を契機に、オウム真理教被害対策弁護団に入る。情報収集、山梨県上九一色村住民の代理人等をしてきたが、1993年7月から脱会カウンセリングを始める。それら活動と話し合いのために撮影した「空中浮揚」の写真が教祖にいらまれたからか、1994年5月運転する直前の自動車外部にサリンをかけられる。1995年6月、脱会者の集り「カナリヤの会」を組織し、その窓口。日本脱カルト協会会員、共著で「宗教トラブル110番」民事法研究会2015年増訂、「オウムをやめた私たち」カナリヤの会編、岩波書店 2000年、「異議あり! 奇跡の詩人ドーマン法、FCの真実」同時代社 2002年など。

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会

後援：世田谷区

アレフ(オウム真理教)が札幌に新施設!

公安調査庁はオウム真理教(アレフ)が新たに造った札幌市白石区の施設に立入検査をした。鉄筋コンクリート4階建ての施設は、アレフでは最大の規模とのことで、これでオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の施設は全国で33ヶ所となる。公安調査庁による立入検査では、現在は20名程の信者が居住しているとのことだ。



撮影:6月2015年 © 2016 Google

アレフは数年前より、北海道を重要拠点として、若者をターゲットに信者の獲得に動き、一時は100名以上の信者の獲得が報告されていた。札幌地域でもオウム真理教と対峙する地域の団体の設立が待たれる。

抗議デモ・学習会へのお誘い

オウム真理教との闘いもすでに16年を迎え、抗議デモも33回を数えることになりました。長い期間の闘いで、活動に参加していただく方々も高齢化してきました。安心安全な烏山地域をつくる活動の継続を考えると、新たな皆さまの参加が待たれます。多様な世代の参加はオウム真理教に脅威を与え、活動が一層活発になるでしょう。一人で参加するのは勇気がいることですが、まずは見学がてら出かけて下さい。



次回の発行予定は11月8日(火)です。

お笑い夏祭り会場で募金活動

8月26・27日お笑い夏祭り会場リンレイ広場で募金活動をさせていただきました。残り少ない夏休みを惜しむように、子どもたちも精いっぱい楽しんでいました。一人の男の子が小さな手に50円玉をにぎり、「おばさんこれ入れていい」と尋ねてきました。気持ちよく募金箱に入れてもらい「ありがとう」と言うと、その子にはっこり笑って立ち去りました。二日目はあいにくの

天気で、傘をさしながらの募金活動となりました。地域の皆さんからは「ご苦労様」と声を掛けていただきたくさんの募金が集まりました。お目当てのお笑いタレントの出演もあり、大勢の入場者が押し寄せ、楽しんでいる姿に平和の尊さを実感しました。いつまで続くかわからない活動ですが、皆さんの励ましもあり心新たに頑張ろうとの気持ちが湧いてきました。

オウム真理教（ひかりの輪）の謎に迫る⑤ 上祐の異常な迄の執着心

ひかりの輪の総括・反省は団体だけでなく、上祐史浩の個人としての総括、各幹部信者の総括があり、読み切るにはそれ相当の目的や時間、それに忍耐も必要だ。と言うのも、余りにも無駄に長文であること、特に団体と個人で重複する内容が多く、さらに心の底からの反省に値しない内容に終始していることだ。このコーナーの連載で必要に迫られ、仕方なく読んだが、自然に臉が重くなるのが度々あった。腹に据えかねたのは、麻原彰晃の批判をうんざりする程繰り返し、教団の凶悪事件への上祐の能天気な対応、上祐本人の責任逃れの文章などの羅列だ。さらに総括・反省なら、新たに設立した団体の「宣伝のような文章」などは掲載しない事が常識だが、ここではオウム真理教とひかりの輪を相対的に描き、ひかりの輪の活動を「素晴らしい宗教団体」と書き綴る厚かましきはいかにも抜け目のない上祐らしい。

さてここからが本題となるが、今回取り上げるのは、物事を意図的にたたみかけることが好きな、上祐の異常なまでの執着心についてだ。

総括と反省に「聖徳太子との不思議な縁を辿る」との項目があるが、上祐はひかりの輪を宗教団体ではなく「新たな精神的な知恵の学びの場」「スピリチュアルなアカデミー」と言いながら総括文では宗教観満載で、聖徳太子まで持ち出しこれでもかとのたたみかける。余りにも聖徳太子に関しての記述が多いので今回も抜粋して紹介する。

「2002年11月富士山で虹の体験をした場所は、聖徳太子が虹を見て聖地とした場所だった。そこに聖徳寺があり、祭壇に虹の写

真があった」「私が聖地を巡った場所は聖徳太子が馬で巡った場所と良く似ている」「2006年に、アレフを脱会する決め手となった京都のお寺にある弥勒菩薩は、聖徳太子が尊い仏として祀ったもので、太子ゆかりの太子堂がある」「長野県小諸市のひかりの輪道場近くに観音菩薩が祀られたお寺があるが、太子が立ち寄られた伝承がある」「大阪の道場も太子に縁のある聖地の近くにあり、太子が戦の前に祈ったお寺の分社が道場のビルの目の前にある」「聖地巡礼し、素晴らしいと感じた三つの仏像があるが、それが太子と縁があるものだった」「長野県の善光寺の秘仏に影響を受けたが、これも太子と縁がある物だった」その後親鸞聖人・法然上人・伝教大師最澄・弘法大師など出てくるが、あまりにも聖徳太子が好きなようで、よくもこじつけがましいものまで調べあげたものだ。偉人とか有名人の名前を使い、自身や団体とゆかりがあると称し、自らの価値を上げるという、よく使われる手法だ。次から次へと聖徳太子との縁をたたみかけるが、その目的は常に相手より上の立場にいたいという、上祐の心の狭さが際立つ。そこから見えるのは、他人の力を借りなければ、何も出来ない人物像も垣間見える。それにしても、よくも細かい物事まで巧妙に関連づけたもので、その執着心だけは「称賛」に値する。上祐は知名度のある人物とネット上も含め対談などを頻繁にするが、これもひかりの輪の知名度と上祐の価値を上げるパフォーマンスの一環なのだろう。

書きたいことはまだありますが、今回を以ってひとまずこのシリーズは終了といたします。長きにわたりご覧いただきありがとうございます。

住民協議会活動報告

9月20日（火） 実行委員会
9月23日（金）・24日（土） 烏山神社秋祭りで募金活動
9月26日（月） 協議会ニュース159号編集会議（初校正）

10月3日（月） 協議会ニュース159号編集会議（再校正）
10月4日（火） 事務局会議
10月12日（水） 協議会ニュース159号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。